

## No.1947

1月25日例会	プログラム	「ロータリー理解推進月間に因んで」	緋田 秀雄君
2月1日例会	プログラム	「日本の造船業の世界進出について」	白石 富喜太君
1月25日のメニュー	「米山ランチ」・親子丼 ・お漬物 ・お味噌汁 ・コーヒー		

## 前回(1月18日)例会記録

出席報告	会員総数	36名(内出席規定適用免除者2名)	出席者数	23名	欠席者数	11名	出席率	67.65%	前回補正率	82.35%
	前回補正者	三宅(孝)君 谷口君 立石君 富永君								
	欠席者	緋田君 花岡君 林君 石川君 井上君 三宅(照)君 仲田君 中山君 大久保君 立石君 山田(次)君								

### 会長挨拶

“ロータリーの友”の今月号の、RI 会長メッセージは、“ポリオ撲滅に勝利しよう”と述べられています。ポリオ撲滅問題は、やはり RI にとって最重要項目なのです。

ポリオ撲滅の努力が始まった 1988 年以來、RI は先頭に立ってパートナー達と共に、この病気を終結させるために戦いの先頭に立ってきました。今、これまでで最も終りに近いところまで来ています。しかし、私たちがほんの一瞬でも気を緩めると、今まで一生懸命に努力してきた事が、すぐに後戻りしてしまうことになると述べています。今までに、私たちロータリアンは 122 カ国でのポリオ撲滅支援のために 6 億ドル以上を集めました。昨年 11 月に、ビル・ゲイツ財団から 1 億ドルの補助金のチャレンジ(資金を提供する条件として、相手側からも同額又は一定額の寄付を求める補助金)の申し出を受けたロータリー財団は、今後 3 年間にこれと同額の資金を投入することを発表しました。ロータリーはこの資金を、WHO とユニセフへの補助金を通じて支給します。玉野ロータリークラブは、例会に回っていますポリオ・プラス募金で、昨年は 142.54 ドルの寄付が出来ました。1 億ドルにほんの少し貢献します。後期もまたもう少し寄付したいと思っていますので、よろしくお願い致します。

### 会長報告

- ・ プロジェクターとスクリーンを購入しましたので卓話でご利用ください。
- ・ 1月27日(日)IMの参加についてよろしくお願い致します。
- ・ 1月31日(木)大阪リバーサイド RC へ藤田 40 周年記念実行委員長と共に訪問します。参加を希望される方はお申し出願います。

### 幹事報告

- ・ 鳥居ガバナーエレクト事務所より会長エレクト研修セミナー(PETS)の開催案内及び同じく来年度「地区協議会」の開催案内(2008年4月20日(日)ママカリフォーラムにて)そして、地区事務局職員研修会の案内が届いています。
- ・ 鳥居ガバナーエレクト事務所より 2008-2009 年度ロータリー財団国際親善奨学生募集についての案内が届いています。
- ・ ロータリーの『友』インターネット速報より 2008~'09 年度 RI テーマの決定が報告されました。  
テーマは Make Dreams Real「夢をかたちに」です。
- ・ 玉野ボーイスカウト育成会より平成 19 年度参加費の納入依頼が届いています。
- ・ 1月27日(日)IMに参加の方々には当日のプログラムを配布いたしますが、交通手段については現地集合にてお願いいたします。
- ・ ハイライトよねやま 95 号・他クラブの週報・例会変更通知は回覧いたします。

### 1月11日理事役員会議事録

- ・ 玉野ロータリークラブ奨学金(玉野総合医療専門学校)の継続について 本年度も引き続き受け入れ継続で承認。
- ・ 40周年記念事業の件 承認
  - 第一 AED 寄贈 市内7中学校+玉原総合運動公園
  - 第二 宇野港への「方舟」モニュメント寄贈
- ・ 大阪リバーサイド RC への公式訪問の件 1月31日(木)訪問を承認

## 委員会報告

- ・ 40周年記念事業委員会(岸本委員長): 40周年記念事業選考経緯について報告。皆様からのアンケート集計の結果、理事役員会報告の通り、候補8項目中、圧倒的多数でAED及び「方舟」モニュメントの寄贈に決定。

## スマイル・ボックス

- ・ 藤田君 - 三宅一昌先生ありがとう(出席率の件)。
- ・ 白石君 - 三宅保昭さんにお世話になりました。
- ・ 渡邊君 - 立石さん退院祝。結婚記念月。
- ・ 三宅(孝)君 - 結婚記念月。
- ・ 谷口君 - 前回欠席。                      ・ 富永君 - 前回欠席。

## プログラム 「商工会議所会頭を終えて」 藤原 侃君

私が商工会議所会頭になりましたのが、昭和53年、48歳の時で約30年になります。昭和22年に商工会議所法が出来、それまでは任意団体であったのが、正式に法人格を与えられ商工会議所が発足しました。三井造船の北条武文専務取締役兼所長が初代会頭に就任しましたが、会議所会頭は公職の一つです。軍需産業の現職取締役は公職につけないことになり、1年も経たないうちに公職追放になりました。そこで時の筆頭副会頭であった私の父がピンチヒッターとして第2代会頭に就任、その1年後三井造船の次の所長に交替しました。彼は戦時中、取締役ではなかったので公職追放にならなかったのです。以来、第6代まで三井造船所長が慣例として会頭を務めました。会議所の会費は会員企業の資本金とか従業員数に応じて割り当てますから企業城下町の玉野では三井造船がトップです。会頭をやるのはおかしいことではないのですが、三井造船所長は君臨すれども統治せずということで、年に数回の総会で挨拶する程度、実際の運営は副会頭他がやっていました。三井造船としても心苦しいのか、前々から実際に運営している人が会頭になるべきだと言っていました。そこで第7代会頭には筆頭副会頭であった木村氏が就任、10数年務め高齢となったため、飛びぬけて若い私に白羽の矢が立ったのです。迷惑なことです。副会頭になってまだ1年、何の功績も挙げていない。当時は造船不況で、三井造船は造船関連の人が会頭になるのは好ましくないという考えでした。造船の関連会社には有力企業も多かったのですが、皆尻込みです。造船色の薄い私にやれということです。また前年に杉本市長の最初の選挙がありました。木村前会頭が後援会長だったのですが、高齢の為私が副会長兼事務局局長兼会長代行みたいな格好で選挙戦を戦い、かろうじて勝ちました。杉本さんは三井造船から出た市長ですから、三井造船としても私に対する好印象があったようです。4年後も選挙があるから会頭は藤原でいいのではないかということで、決まりました。私に才能があったからなんていうものではありません。会頭になると色々な役職が回ってきます。自分の仕事はほとんど出来なくなりました。今では市の委員会とか検討会には大学教授が委員長になることが多いのですが、当時は一般市民から選ぶ時代でした。色々な委員会の会長が回ってくるのです。私が有能なリーダーだということではなく、会頭というステータスと藤原にやらせておけばたいしたことをやるわけでもなく無難だろうという訳です。やたらと役職が回ってきました。

30年間の会頭在任中には色々なことがありましたが、第一に玉野信用金庫の合併問題です。信用金庫は地元の中小企業をお得意さんとしています。玉野の場合、地元本店のある金融機関は信用金庫しかなく、取引先のほとんどが会議所の会員企業です。バブルがはじけいろいろな金融機関が破綻し、地域の中小企業が混乱、多くが倒産しました。そういう時でも玉野信用金庫はお得意さんを可愛がる金融機関でした。少し悪くても経営者が真面目に一生懸命やっているのを助けてやろうというのが基本的な姿勢で、造船不況の時もそれほど倒産がなかったのも玉野信用金庫が支援したからです。駆け込み寺とも言われていました。ところが玉野信金も苦しくなり、大蔵省は理事長を替えるよう指導したのですが、誰もやりたがらない。商工会議所の会員が困るのだから、会議所会頭が理事長になれというのが大蔵省の指導でした。私にとって金融とは頭を下げて借りる立場だったものが逆に貸す立場になる。また金融には金融の特殊な言葉があり私には通じないことから渋りましたが、どうしてもやれということで1年間副理事長を引き受けました。その1年間で玉野信金は破綻しているということが分かりました。もともと玉野信金の内容は良かったのですが、岡山へ進出したのが命取りでした。岡山への進出を決めた当時の経営者が悪かったわけではありません。地域で発展し、これ以上の発展が望めない状況になった時、近隣の大きなところに進出するのは経営者として当然のことです。岡山市内に2店舗開設し成績は上がったのですが、後発の金融機関であったためお得意様を開拓するのに無理をしました。旧来の金融機関が相手にしないようなところまで相手にしたのです。バブル期に多額の融資をした中にたちの悪いものがあり、焦げつき、不良債権が発生、どうしようもなくなりました。玉野で稼いだ分だけでは挽回できず合併するしかなくなったのです。昔からあった業界全体で助け合う護送船団方式というのがきかない。破綻機関は玉野だけではなくあまりにも多く、全部を救済するのは全信連としても出来ない。財務局、全信連から理事長を迎え何とか助けてもらうというのがそれまでのやり方でした。しかし怖気づいて来るわけがない。誰かがやらなければならない。迷惑な話だが、象徴的な意味合いから会議所会頭がやらなければならないとなりました。私共も個人的にも信金と取引があり破綻してもらったら困る。ということで行かされたのです。一生懸命努力し、相互信金を中心に4金庫が合併したのです。なんとか切り抜けることができ、やれやれでした。

次に会館の建設がありました。負担しなければならぬ金が2億円。一昔前なら何ともない金額でしたが、一番悪い時で2億円の金も出ないという状況の中、これも皆さんの協力を得て何とかやりました。あれは成績がよく成功しました。今では見返りが出ています。まだまだ色々ありますが、アルコールが入ったまたの機会にお話したいと思います。